

6 都営バス、東京さくらトラム（都電荒川線）、日暮里・舎人ライナーにおける対策

- 都市型水害や大規模水害が発生した場合、都営バス、東京さくらトラム（都電荒川線）及び日暮里・舎人ライナーは、地上の浸水により、車両、電力施設等が被害を受けるおそれがあります。
- このため、事前に車両を非浸水区域に避難させるとともに、施設の改修等に合わせて、営業に必要な受変電設備等の対策を行うことを基本とします。

（1）都営バス

営業所や自動車工場等が浸水すると、バス車両はもとより、営業運行や車両整備に必要となる、受変電設備等が被害を受けることが想定されます。

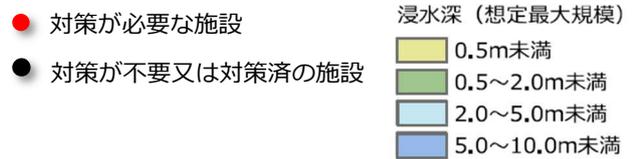
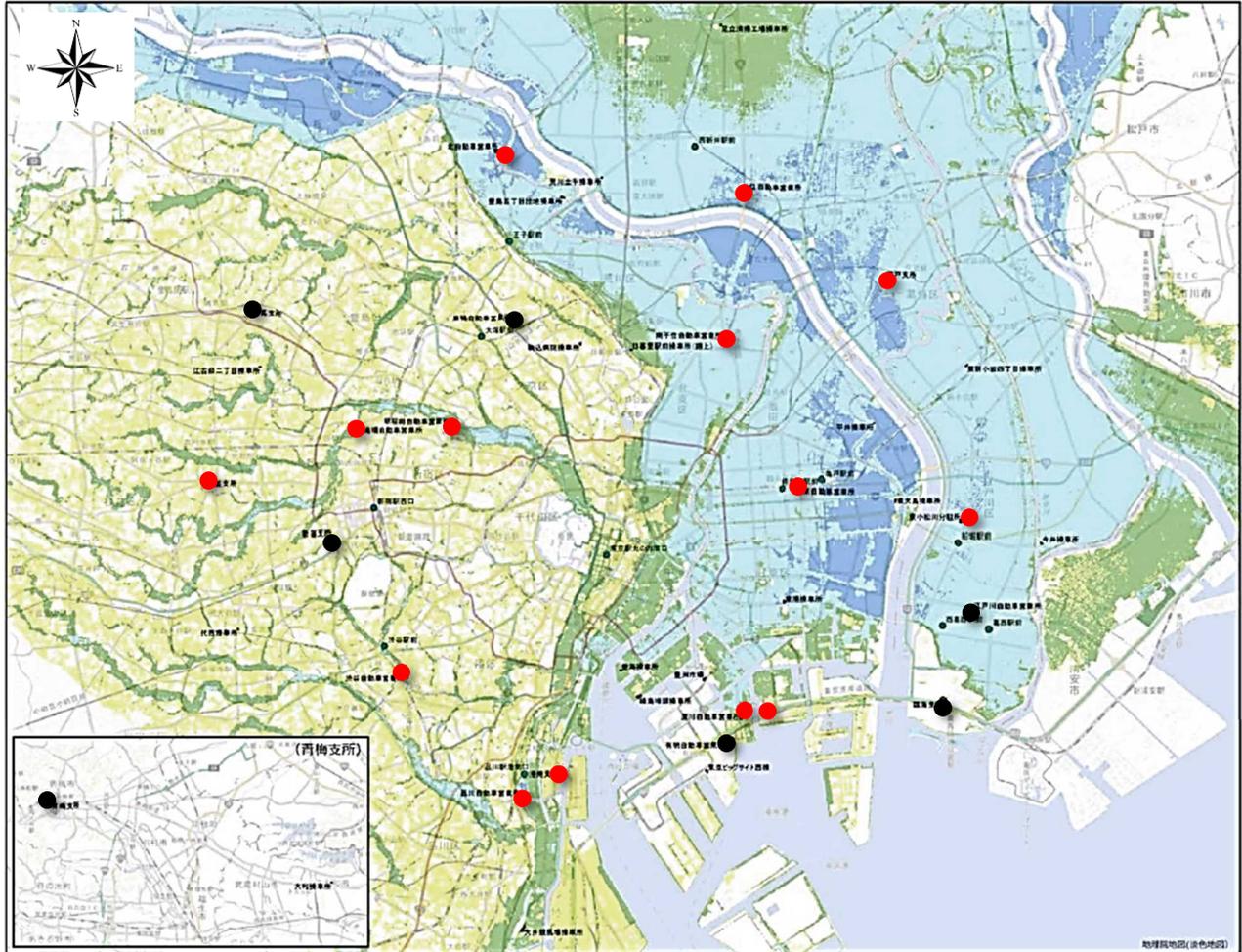
このため、営業所等の受変電設備については、高所移設などの対策を庁舎等の改修工事に合わせて検討します。

また、自動車工場については、出入口への止水板の設置を進めます。

さらに、バス車両については、浸水しないエリアに避難させることとし、訓練を通じて対応力向上を図ります。



図表 6-1 営業所と自動車工場



図表 6-2 浸水予想区域図等の重ね合わせ図と都営バスの営業所等
(図表 3-2 浸水予想区域図等を基に作成)

施設	施設数	浸水区域内にある施設数	対策が必要な施設数
営業所等	20か所	18か所	13か所
自動車工場	1か所	1か所	1か所

図表 6-3 対策が必要な施設数

(2) 東京さくらトラム（都電荒川線）

路線の約半分となる王子から東側と、南側の一部の浸水深が深く、軌道や停留場のほか、荒川車両基地の浸水により、車両や基地内に位置する変電所が被害を受けることが想定されます。

車両基地の施設を完全に防護する対策の実施は困難であることから、土のうによる緊急対応などの対策を講じます。

車両については、浸水しないエリアに避難させることとし、訓練を通じて対応力向上を図ります。



図表 6-4 東京さくらトラム（都電荒川線）



図表 6-5 浸水予想区域図等の重ね合わせ図と東京さくらトラム（都電荒川線）路線図
（図表 3-2 浸水予想区域図等を基に作成）



図表 6-6 荒川車両基地



図表 6-7 車両基地の浸水を想定した車両避難訓練

(3) 日暮里・舎人ライナー

日暮里・舎人ライナーは、路線全体が浸水範囲にありますが、全線が高架となっており、軌道面は想定浸水深より高い位置にあるため、路線が浸水する可能性は低いと考えられます。

一方、車両基地は半地下構造となっており、浸水エリア内に位置していることから、出入口や搬入口等から水が流入するおそれがあるため、止水板のかさ上げや防水シャッターへの更新等による対策について、関係者と調整しながら検討・実施します。

車両については、浸水しない高架の軌道上に避難させることとし、訓練を通じて対応力向上を図ります。



図表 6-8 浸水予想区域図等の重ね合わせ図と日暮里・舎人ライナー路線図
(図表 3-2 浸水予想区域図等を基に作成)



図表 6-9 日暮里・舎人ライナー



図表 6-11 舎人車両基地